

二本松市子育て世代包括支援センター

# Mum(ママ)

9月3日(月)オープン

「初めての妊娠で、相談する人がいない」

「子育て中に、いろいろイライラしてしまう」

「保育所の情報を知りたい」

「子どもの離乳食について悩んでいる」

「子どもの発達にちょっと不安がある」

「子育て中の親同士が知り合えるところはあるのかな」

「など、妊娠期から子育て期までは、いろいろ悩みがこぎもです。」

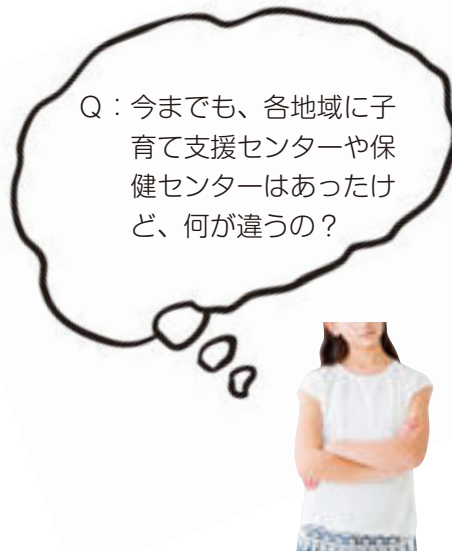
このような悩みの総合窓口となるのが、子育て世代包括支援センター(Mum(ママ))です。

## ～ 愛称「Mum(ママ)」の由来 ～

「ママ」は菊を表しています。菊は二本松市の花でもあり、英語では「クリサンセム(chrysanthemum)」、略して「ママ」と言います。語源はギリシャ語で「黄金の花」という意味があります。

菊は、手を掛ければ掛けるほど、美しい花を咲かせます。「Mum(ママ)」では、子育てをする方々を全力でサポートすることで、黄金の宝である子どもたちを、大切に育てていこうという意味を込めて名付けられました。





一番の特徴は、母子保健や児童福祉など、出産期から子育て期までのどの相談にも対応できることです。Mum(ママ)は、「不安があってもどこに相談していいかわからない」という方のための相談窓口となります。

今までは、妊娠・出産は健康増進課、子育ては子育て支援課などと、それぞれの時期に応じて相談窓口が違いました。しかしママでは、出産期から子育て期までの全ての相談窓口として、必要な支援の調整や関係機関との連絡調整をしながら、保健師や助産師などの専門職が悩みなどの相談に応じ、切れ目ないサポートを行います。

### 主な業務

- ・母子健康手帳交付(※1)
- ・妊産婦の相談や情報提供(ホームスタート(※2)の紹介等)
- ・お子さんの身長や体重計測、お母さんの血圧測定等
- ・乳幼児健診の予約受け付け
- ・子育てに関する情報提供(遊び場、予防接種、アプリの使い方等)

・助産師への相談(毎週水曜日の午前中に母乳相談等を受けることができます。)

- ※1 安達保健福祉センターで主に交付しますが、他3カ所の保健センターでも交付は可能です。
- ※2 ホームスタートとは、地域の育児経験者が未就学児のいる家庭を訪問し、子育てを支援するボランティア活動のことです。

### 対応する職員

保健師2人、子育て支援員1人、助産師1人(職員2人の交代制)

### 場所

安達保健福祉センター内(油井字砂田101)

### 開設時間

9：00～17：00(土日・祝日、年末年始を除く)  
※直接お越しただかなくても、電話での相談も受け付けます。(☎(24)8660)  
※各種申請先は、今までと同様にそれぞれの部署となります。



安達保健福祉センターの入口を入って左手に設置されたMum。カウンター上部の看板が目印です。



Mumの職員。左から寺島(保健師)、松浦(助産師)、野地(助産師)、阿部(保健師)



子育て世代包括支援センター  
『Mum』 所長

保健師 阿部 洋子

県内4カ所の保健所で17年勤務したあと、二本松市役所で21年間保健師として勤務。核家族で共働きしながら、3児の母として仕事と子育てをしてきた。現在孫が4人。

## 『頼ってもいい場所』 『何でも相談できる場所』 『思ってももらえるセンター』 ここにいきたい

現在子育てのお母さんたちと話をしていくと、子育てにとっても不安を感じ、周りからの十分な支援を受けることができない方が多いように感じます。不安に思う原因を探してみると、高度経済成長期以降の日本における経済効率優先を背景に、「早く歩けるように」「早くしゃべれるように」など、周囲から子育てに対する効率を求められていることが上げられると思います。しかし子育てに効率を求めることは不可能です。

『共同養育』という言葉がありません。これは子どもの親だけでなく、近所の人などがみんなで協力して子育てをするという意味で、人類のともとの子育てスタイルはそ

うでした。日本でも昔はそうでしたが、高度経済成長期以降、男は外で仕事、女は家事・育児に専念という風習の中、子育ては母親の仕事になってしまいました。しかし子育てだけしては、不安やストレスがたまる一方です。昭和初期までの日本では、母親も農作業などに明け暮れ、その間の子育ては、家族や近所の人がしてくれていたことで、母親の精神的バランスがうまくとれていた部分もあります。

インターネットなどで多くの情報が入り乱れる現代社会では、どの情報が正しいのか分からなくなってしまう。「こんなこと聞きに行ってもいいのかな？」と思っている方は、とりあえずMum(ママ)に足を運んでみてくださいます。私たちが子育てメンバーの一員として、大切なお子さんを皆さんと一緒に育てていきます。



助産師 野地 妙子

福島県立医大に助産師として10年ほど勤務後、県立総合衛生学院や県立医大で助産師養成や臨床指導などの教務を勤め、現在は福島県などから委託を受け、福島県助産師会会員として母子訪問事業などを行っている。母親としては3人の子育て経験を持つ。

## 不安なときは、一人で頑張らず、私たちに相談してください

Mumでは、医療機関などでカバーしきれない部分について、お母さんたちに寄り添いながら、妊娠から子育てまでの手助けをしたいと考えています。例えば初産の方にとって、出産は未知の世界です。数多く出産に立ち会ってきた私の経験を生かし、出産時の状況などを事前に細かくお話しすることで、出産を迎えるお母さんの不安を少しでも和らげたいと思っています。また子どもを産んで終わりではなく、産後の振り返りを一緒にすることで、安心して次の出

産を迎えられるようにもしていきたいです。

産科医が不足する現在、もく浴の仕方や母乳のあげ方・出し方など、病院ではなかなか細かいところまでケアできないのが現状です。仮に病院で教えてもらったとしても、家に帰って実践しているうちに、疑問や不安が出てくるものです。市内に出産できる医療機関が無いからこそ、このセンターを利用していただき、出産や育児に関する細かい部分の不安や疑問を私たちにぶつけてください。

継続して実践できることをアドバイスできるように頑張りますので、一緒に子育てを楽しみましょう。

### 今月の両親学級

安心して出産・育児ができるよう、両親学級を毎月開催しています。お気軽にご参加ください。

日時 9月16日(日)

午前9時～

・受け付けとマタニティ体験

午前9時30分～正午

・赤ちゃんのお風呂の入れ方と助産師交流

・早産予防のためのお口の手入れ

講師 助産師、歯科衛生士

対象者 市内在住の妊婦さん

とそのパートナーの方

会場 安達保健福祉センター

託児 無料

※事前に申し込みが必要。

※託児を希望される方は、オムツや着替え、ミルクなど

をお持ちください。

持ち物 母子健康手帳

申込期限 9月13日(木)

※詳しくは、左記まで問い合わせ

ください。

◎問い合わせ・申し込み

健康増進課保健係

☎(55)51110

Fax(23)1714



相談



それぞれの母子に応じたアドバイス

## 二本松市子育て世代包括支援センター(Mum)

- ①妊産婦の方や子育て中の方の不安に思っていることやお悩みをお聞きします。
  - ・保健師等によるセンターでの面談や家庭訪問などから、お母さんやお子さんの実情をお聞きし、これらの情報をお一人ごとに整理しながら、子育て期が終わるまでのサポートに活用していきます。
- ②妊娠・出産・子育てに関するさまざまな相談に応じながら、必要な情報を提案します。
  - ・妊産婦や保護者の個別の疑問や不安に対応し、保護者の方と話し合いながら、本人にとって必要な支援制度などの情報提供や助言などを行います。
  - ・保健師は看護師の資格も持っているので、医療面の相談などにも対応可能です。
  - ・必要に応じて各家庭を個別訪問し、ご家庭の状況に合った継続的な支援も行います。
- ③セルフプランや支援プランを作成します。
  - ・妊産婦や乳幼児等の悩みや要望はそれぞれ異なります。センターでは一人一人に的確に対応するため、必要に応じて、今後の妊娠・出産・子育てに関するスケジュールや利用可能な制度などを、本人と話し合い個別の状況に合わせながら、セルフプランや支援プランを一緒に作成していきます。
- ④保健医療や福祉の関係機関との連絡調整を行います。
  - ・利用者目線に立って関係機関と十分な連絡調整を行うことで、切れ目のないサポートを実現していきます。



連携



## 関係機関

医療機関、保健所、児童相談所、保育所、幼稚園、子育て支援機関、民間機関 など

◎問い合わせ・相談窓口：  
二本松市子育て世代包括  
支援センター(Mum)  
☎(24)86600  
Fax(23)1714



お気軽に  
ご相談ください。

大きなデパートなどには必ず総合案内所があるように、子育てに奮闘するお母さんたちの総合案内所が子育て世代包括支援センターです。  
このセンター最大のメリットは、妊娠・出産・子育て期のさまざまな悩みや不安を、1カ所で相談できること。お母さんたちの悩みや不安が少しでも解消されるよう、職員一同、ご両親やお子さんの目線に立って、一緒に悩みながら相談に応じ、楽しく子育てができるよう全力でサポートしていきます。